

第4回総合計画審議会議事録

1 開催日時 平成20年12月17日(水)
午後1時30分から午後3時30分

2 場 所 流山市役所4階委員会室

3 出席者(13人) 敬称略

(1) 審議会委員(委員の構成)

浅見 泰司 (学識経験を有する者)
内山 久雄 (学識経験を有する者)
奥田 富子 (教育委員会の委員)
大塚 侃 (農業委員会の委員)
海老原新蔵 (公共的団体等の職員)
中山 文男 (公共的団体等の職員)
新保 國弘 (市民公益活動団体を代表する者)
山口 文代 (市民公益活動団体を代表する者)
大澤 信弘 (公募の市民)
石井 主税 (公募の市民)
島田 直幸 (公募の市民)
村瀬 義夫 (公募の市民)
増岡 信男 (公募の市民)

欠席委員(5人)

加藤 良則 (学識経験を有する者)
木下 剛 (学識経験を有する者)
久保悌二郎 (学識経験を有する者)
山崎 秀雄 (公共的団体等の職員)
田井慶一郎 (公共的団体等の職員)

(2) 出席職員等

案件関係職員

企画財政部長 染谷 郁
企画財政部次長兼企画政策課長 加藤 正夫

企画政策課長補佐	水代 富雄
財政課長補佐	倉井 操
行政改革推進課長	遠藤 幹夫
行政改革推進課係長	佐藤 治昌

その他事務局職員（企画政策課）

主査	安井 彰	主査	大津真規
主任主事	大塚 健	主任主事	富樫 聡

策定支援事業者

ランドブレイン株式会社

（３）傍聴（３名）

４ 議 題

- （１）総合計画審議会委員からの意見について
- （２）重点施策について
- （３）第１次財政見通しについて
- （４）その他

５ 配付資料

- 書類１ 総合計画審議会意見一覧
- 書類２ 重点施策の検討について
- 書類３ 前期基本計画下期５か年の重点施策及び選定時の視点
- 書類４ 重点施策の選定の考え方
- 書類５ 重点施策の選定シート（記入例）
- 書類６ 重点施策選定シート総括表（記入例）
- 書類７ 重点施策の選定シート
- 書類７ - １ 重点施策選定シート（策定部会結果）
- 書類７ - ２ 重点施策選定シート総括表
- 書類８ 第１次財政見通し推計結果
- 参考資料１ 一般財源について（平成１９年度決算の例）
- 参考資料２ 下期５か年計画における政策事業費の概要
- 参考資料３ 流山市財政推計の考え方（一般会計）の概要

6 議事内容

(浅見会長)

- ・第4回の総合計画審議会を開催する。審議会委員18名中12名の出席。
(遅れて出席した委員が1名いるため最終的には13名出席)
- ・流山市付属機関に関する条例第5条第2項の規定により、委員の半数以上の出席によって成立。
- ・本日の議論の議題は、4つ。
 - (1) 総合計画審議会委員からの意見について
 - (2) 重点施策について
 - (3) 第1次財政見通しについて
 - (4) その他
- ・事務局から議題の説明後、内容確認、意見交換という形で進めたい。

(加藤企画政策課長)

[総合計画審議会委員からの意見について説明]

書類1 総合計画審議会委員からの意見について

(内山委員)

- ・書類番号1のテーマの欄が、太字と細字があるが、この違いは何か。

(加藤企画政策課長)

- ・左側の欄をみると、当日の当、後日の後と書いてある。当日いただいた意見を太く、ゴシックで表している。

(新保委員)

- ・桜を植えるとあるが、江戸時代から、ソメイヨシノ単品の植栽というのは無いので、少なくとも、10種類から20種類を考えて植える、という提案にしておいたほうが良い。隅田川や飛鳥山、荒川も、いろいろなものを植えて、1か月から1か月半くらい桜が見られるようにしてある。戦後、植え替えたとき、500本くらい利根運河にあるが、非常に少ない種類の桜になり、ほとんどソメイヨシノなので、時代遅れではないか。

(浅見会長)

- ・皆様のご意見も含めてお願いしたい。発言が載っていない、主旨が違う、付け加えたいなど。

(大澤委員)

- ・ 将来を支えていく若い世代の人たちが流山に多く定住するように、という私の意見がどこに載せてあるのか。または、割愛されたのか確認したい。

(加藤企画政策課長)

- ・ 審議会後に頂戴したご意見は長く中身の濃いものだったが、要点をこちらの資料にまとめさせていただいた。5番目の子育て支援制度の創設について、として書かせていただいた。もう一点、賑わいのあるまちづくりということで、賑わいのある街はお年寄りが積極的に活動でき、子育て世代が選んでくれる街である、というご意見として、全て、ご意見は要点で掲載させていただいた。

(大澤委員)

- ・ 了解。

(山口委員)

- ・ 市民意識調査の結果を活用したタウンミーティングの開催について、という区分になっているが、私の意図は、まだまだ少子高齢社会、男女共同参画社会はとても大事であり、その結果が意識調査に現れているので、それに沿って5か年計画の中にきちんと位置づけてほしいというもの。タウンミーティングのテーマとするだけでなく、政策として取り上げていただきたい。

(加藤企画政策課長)

- ・ タウンミーティング、女性タウンミーティングの開催を予定している。現在の施策の中でも男女共同参画の社会づくりということで、36施策のうち1本となっているので、この施策については今後も継続する。

(浅見会長)

- ・ 男女共同参画を生かしながら意見を聞いてほしい、ではなく、施策に反映するようにしてほしい、ということ。

(新保委員)

- ・ 都心に一番近い森のまちというフレーズで流山を訴えているが、もう一つ何か足りないのが、都心に一番近い森と水田のまちというのはいかがか。新川耕地に良いところがあるので、歴史とからめて、流山の特徴とするようなことをしたらどうか。

- ・生態系に配慮するときに、都市公園だけでは樹木が少ないので、いわゆる森林法という森林と、それから水田の最低の面積を守っていくということも必要ではないか。
- ・森林については、人が吐き出す炭酸ガスを固定化するだけの樹木の面積を物差しと考える。平成17年の山林面積が282haなので、人口の17%の吐き出す炭酸ガスを吸収できる計算になる。人口の1割ぐらいの二酸化炭素を吸収できるだけの樹木の面積を確保するというアドバルーンを掲げてもいいのではないか。
- ・水田については、1人の食する米が1日当たり1合という数字が農水省から出ているので、流山市17万人の1割ぐらいの水田を確保できれば良い。しかし、実際には、180haくらいまで無くなっていて無理なので、5%から10%分の水田は確保する。それが翻って、生態系にいい効果を与えるのではないか。

(浅見会長)

- ・特徴ということで、都心に一番近い森と水田のまち、といったコンセプトが掲げられないか。それから、水田や森林に関して、現実的かどうか精査が必要だが、人口の1割で目標を掲げると良いのではないか、というご意見。

(内山委員)

- ・中学生を海外に派遣し、どこかの外国と姉妹都市を提携し、全校へALTの配置を行えば、国際化の推進になると考える人がいるということなのか。

(加藤企画政策課長)

- ・委員から意見を寄せていただいた。現状、中学生の海外派遣は行っていないが、平成16年度までは青少年の海外派遣を行っていた。姉妹都市は、国内の2都市と結んでいるが、海外はない。中学校のALTは配置をしている。

(染谷企画財政部長)

- ・補足すると、教育関係における取り組みについて、質問をいただいた。今の3点と、子どもたちの学力向上に向けた外国語の取組みや、国際理解教育に向けた取組みについての内容だった。

(内山委員)

- ・中学生を海外に派遣し、姉妹都市を提携し、外国人のイングリッシュ・スピーカー・ティーチャーを招いて英語だけを教えるというテクニックだけの

ことで、国際化の推進になるのかなと思う。

- ・国際化を推進するなら、前から市長がおっしゃっているような、日本語をしゃべらない学校を誘致する、あるいは、積極的に外国人の方に住んでいただく、そういう物理的なことが必要ではないか。

(浅見会長)

- ・本日は後にまだ議題が控えているので、第3回の審議会のご意見、その後のご意見、本日出た意見などを整理して、まとめたい。まとめ方については、私と、事務局におまかせください。

(加藤企画政策課長)

〔重点施策についての説明〕

書類2 重点施策の検討について

書類3 前期基本計画下期5か年の重点施策及び選定時の視点

書類4 重点施策の選定の考え方

(浅見会長)

- ・議題2の内容について、質問や内容確認、あるいは、ご意見をうかがいたい。

(村瀬委員)

- ・市街地整備について。スプロールしてしまった防災上危険な市街地が現にあるが、それについてどう考えているのか。

(加藤企画政策課長)

- ・現在の施策の中では、地域特性に合った良好な市街地整備の中で、住宅と農地の混在の地域の整備、バリアフリーのまちづくり、開発行為の適正指導などを進めている。お尋ねの駅周辺の市街地整備の部分は、個別施策になっている。今後の施策については、現状と課題、基本方針がまとまった段階で、会議でご提示できる。

(村瀬委員)

- ・今のマイナスを上げるというのも、流山のグレードを高めるには重要なので、今後検討していただきたい。

(新保委員)

- ・賢い消費者の育成の欄が空白だが、ランクが優先度32位と低い、大事な

ことである。例えば、新川耕地のインターの近くに、道の駅のようなものを設置する。そこで、流山の農産物を手に取り見ることができ、作っている人の話を聞いて、賢い生産者、賢い消費者の、交流の場ができれば良い。周辺の他市に比べて、流山の農産物は何が特徴かよくわからない。

- ・グリーンチェーンだけではなかなか展開が難しいので、大きな木については、どんぐりチェーン、どんぐりから作ろうということをやったらいかがか。中低木、鳥が好きな樹木については、バードチェーン、と名づける。グリーンチェーン、どんぐりチェーン、バードチェーン、それからお庭のガーデニングと、連携して緑を積極的に財産化していく必要がある。

(大澤委員)

- ・流山は、やはり水と緑。ムルデル氏が建設したといわれる、8.5 kmの利根運河水系と、その緑を生かしていくべきではないか。この施策の中にはっきりと出てこない。
- ・ソメイヨシノに限らず、堤防の上に木を植えることは国交省の関係で難しい。堤防の内側と外側を全部公園に指定すれば、木も植えられる。高尾の農水省の林業試験場で、全国の桜の中の生育の良い種類がわかる。
- ・水辺空間を大いに利用して、将来に向けて、今から計画的に桜、流山市の木のつつじ、あるいはさつきを植える。緑を継続的に維持・発展させていくための施策が必要。この辺について、どのように考えているのか。

(加藤企画政策課長)

- ・今回の36施策のシートについて補足説明あり。36施策について、優先度をつけるために客観的評価をしたものである。大澤委員がおっしゃっているような個別施策については、別途検討し、後ほどご報告したい。

(浅見会長)

- ・ご指摘をいただいたようなことは、実際にブレークダウンしたときに検討するという事。

(石井委員)

- ・結果的に大綱に載っているものは上位になり、そうでないものは下になっている。大綱がそもそも市民のどういった意思決定によって決まっているのか、結局市民の意見は反映されていないのではないか。
- ・市民満足度の評価を重く、例えば合計20点にして、大綱評価と策定部会独自の評価を最大10点ずつにしたら、市民の意見も取り上げられたように見

え、策定の仕方としても良いのではないか。

(浅見会長)

・ウエイトのつけ方についてのご意見。

(加藤企画政策課長)

・選定の考え方にしたがって採点した。行政評価である施策の大綱、市民の目線からの市民満足度、部会、この3つの視点から採点しており、重要度は同等という考え方からそれぞれ10点配点にした。部内で検討した結果、このような採点の方法で、客観的に評価した。

(浅見会長)

・例えば、市民満足度の視点の中で、マイナスと評価が悪化している施策があるので、要望の高い施策が重視されても良い。それが、最大でも3点しかつかないというところが弱い。この辺をもう少し上げられると、市民の要望をうまく反映することにつながる。そういうご意見と思う。

・点数が高いから、自動的に重点施策にするのか、それとも、これは1つの参考資料として、別な観点も含めて選ぶのか、そのあたりはいかがか。

(加藤企画政策課長)

・今回は36施策について客観的な評価をした。これで決定したわけではなくて、今後、重点プロジェクトという考え方もあるので、その辺とのマッチングを考えていきたい。

(浅見会長)

・まだ、変える余地はあるということ。

・市民満足度、特に、要望点のウエイトを高くすると、根本的に変わるのか、シミュレーションはされているのか。

(加藤企画政策課長)

・こちらは、点数のウエイトをかけて、倍にしても大きくは変わらない結果だった。

(浅見会長)

・あまり変わらないということ。全体としてグレーがかかっているものは、そのままグレーになるということか。

(染谷企画財政部長)

- ・先ほどご質問にあった項目について、市民満足度を倍にしてシミュレーションを行ったが、それでもここに載せている10位までは、変わらなかった。

(石井委員)

- ・市民がより参画して決まった、市民がなるほどと思えるような点付けのほうがいいのではないかと言いたかった。

(内山委員)

- ・重点施策マトリックスを見ると、縦軸と横軸、プロジェクトと施策の意味がわかりにくい。これは、ツリー図状のピラミッド型の構成図ではないか。縦軸も横軸も、まちづくりの同じ性質のもので、構造がわからないので、1回、ピラミッド型に構成しなおしたほうが良い。
- ・マトリックスにするならば、縦列が行政の部署、横軸が市全体としてのグローバルに見たときの6つの方向性にしたらわかる。
- ・選ばれたものに があり、実際は評価点が入る。横に合計して重点施策と書いている。縦に合計されていないが、縦計すると、重点プロジェクトでもさらに重点が何であるかが点数上わかるので、これに全部点数を入れてみたらどうなるか、検討すべきではないか。

(浅見会長)

- ・書類番号3のマトリックスの考え方について、いかがか。

(加藤企画政策課長)

- ・マトリックスは、下期5か年計画の、現在使っているもの。今後、重点施策と重点プロジェクトが後期の基本計画でも出てくるので、ご意見を参考に、十分に検討していきたい。

(浅見会長)

- ・マトリックスの活用方法はいくつかある。全部網羅されているか、各列にあるか、横の行にそれぞれ があるか、それから内山委員がおっしゃったように重みをつけることもある。プレゼンの仕方も含めて、いろいろなことがわかるので、工夫をしていただきたい。

(浅見会長)

- ・まとめると。既成の問題がある市街地への対策も明示的に配慮したほうが良い。それから、流山の特色ある農作物が見えにくいので、アイデアとして、道の駅みたいところで、生産者と対面販売して、生かしていく。それから、生態系には、森林や水田も位置づけるべき。同様に、水辺、利根運河などもうまく生かした空間づくりを進めていくべき。それから、ウエイトの付け方として、大綱が5点ずつの加点で点数が重いので、もう少し市民の要望や意識を重視したというスタンスが出るように示していただくと良い。それから、重点施策マトリックスは、もう少し工夫して、軽重の加減をするなど、考えていただきたいということ。
- ・重点施策については、市長からの諮問の中にもあるので、今回の議論をふまえて、そのような形で整理をしていくということ。

(加藤企画政策課長)

[第1次財政見通しについての説明]

書類8 第1次財政見通し推計結果

(浅見会長)

- ・この内容についての質問、確認などをお願いしたい。

(増岡委員)

- ・今回、はじめて決算について資料と説明がなされた。財政問題が大変だということは、一般の市民にも浸透しているが、審議会も、そういうものまで担当するのであれば、検討や勉強をしなければいけない。事前に説明資料を含めて送っていただかないと、重要なことなので困る。

(加藤企画政策課長)

- ・財政の見通しは、積算がぎりぎりになったため、事前資料が1週間前を切っ
てしまい申し訳なかった。今後は、できるだけ早く報告させていいただく。

(増岡委員)

- ・総合計画の中には、財政の問題もテーマに含まれていたのか。

(加藤企画政策課長)

- ・基本計画の中で、人口と財政は大きな構成要因。現在の基本計画にも財政の見通しが入っている。後期の基本計画にも盛り込む。

(染谷企画財政部長)

- ・ 今回の第 1 次財政見通し推計結果は、歳入のベースのみで考えたもので、繰入金が入っていない。今後、関係部局とヒアリングを行って事業のベースが入ると、特定財源や国・県、起債も入る。第 2 次では、事業費やその財源、他の特別会計への繰り出し、特別会計の事業費も含めて説明できる。

(大澤委員)

- ・ 流山市の財政の全般について、検討する機関というのは、他には無いのか。

(増岡委員)

- ・ 行財政改革審議会というのがある。行政と財政と、両方をやる。

(大澤委員)

- ・ その辺との関連はどのように考えているのか。

(加藤企画政策課長)

- ・ 行財政改革審議会があるので、そちらでも機会があれば報告する。
- ・ 単年度のもは、当該年度の一般会計予算に関する議会の特別委員会がある。議会における審査、長期の財政計画については、本審議会及び行財政改革審議会において、今後説明していきたい。

(浅見会長)

- ・ 市長がおっしゃる身の丈の計画とは、財政的な裏付けを考えつつ、計画を練ること。当審議会でも財政についても審議しなければいけない。
- ・ 行政サービスが何か、行政コストがどういうものかを考えて選択する。例えば、重点施策にも松竹梅のようなグレードがある。そういうところまで進められると良い。第 1 次では、どの程度の収入見通しか、これを超える計画は出せないということを皆さんと情報共有すること。

(染谷企画財政部長)

- ・ 今回は、歳入を出し、歳入の中で政策的経費に充てられる一般財源がどのくらいあるのかを示した。次回は、各施策の事業や特別会計も絡めた上で、お出ししたい。

(浅見会長)

- ・ その場合、松竹梅というようなグレードが出ると良い。

(染谷企画財政部長)

- ・例えば、ある特別会計の中の何かの事業費について補助の要望に応じて、特定の受益者に一般会計あるいは、特別会計から補助金を出す。いわゆる受益者負担の議論などは、各委員会や各審議会でも個別に行われている。

(浅見会長)

- ・そのようなことについては、長期計画なので、受益者負担を原則にするのか、福祉的な行政団体でいくのか、大きい方針として議論して良いのか。

(中山委員)

- ・日本の借金は 894 兆円、GDP に占める債務の比率が 178 % もある。アメリカが 70 % ぐらい。国も破綻寸前。今のやり方は限界点である。

(大澤委員)

- ・財政の見通しというのは刻々と変わるけども、基本的な考え方としてはこうだということをぜひこの審議会の中で決めるべき。要望が出て、対応せざるを得ないような場合に、それに基づいて判断する。個々は、単年度会計で対応していただく。
- ・例えば、どこかの部門で財政部会、または、この総合計画審議会の中で特に必要に応じて財政部会というものを設けるという考え方もあるかどうか伺いたい。

(染谷企画財政部長)

- ・財政部会の設置は、必要かどうかは今から推測することは困難である。
- ・今回お示ししたのは、第 1 次の財政見通し、歳入ベースで、一番重要だと思っている。今後 10 年間で、市税を中心とする歳入をどれだけ獲得できるか、そして歳入のうち、一般財源として真水の部分がどのくらいか、その真水の部分を人件費等の経常的な経費でなく、政策的事業にどれほど回せるか、このフレームづくり、枠づくりが、最も貴重な基盤で、身の丈にあった計画づくりの根底になる。今日時間が足りなければ、次回、この歳入の財政見通しについても、ご審議いただきたい。

(村瀬委員)

- ・市民税には個人と法人がある。世界的経済危機で、法人のほうはかなり落ち込み、自治体、国レベルでも相当にダメージが来る。流山市の法人税が受け

る影響を教えてください。

(加藤企画政策課長)

- ・平成19年度決算では税関係で220億円の歳入。歳入は地方税が多くを占めるが、地方税のうち、市民税は約55%、121億円で、うち法人市民税が9億円なので、流山は結構少ない。

(染谷企画財政部長)

- ・法人税は国税なので、市町村のほうに交付される法人税割が、流山市の一般会計の地方税、約225億円のうち、約9億円。225分の9。このような時代だが、法人税割に依存する率が非常に少ない本市にとっては、あまり影響はない。
- ・ただし、来年度の平成21年度予算の編成では、その当初予算における地方税が、団塊の世代の皆さんの大量の退職等により、個人市民税が多少減額になるかと、危惧している。

(浅見会長)

- ・それを伺おうと思っていたが、そういう見通しは一応入っているということ。

(島田委員)

- ・この審議会では、どのくらいの歳入があり、特にその中でどのくらいの部分が見えるのかわかれば、あとはその中で総合計画をしていく。歳入のことをこの審議会で議論する義務や必要はあまり無いのではないかと。

(内山委員)

- ・市民税以外にも収入を得る仕掛けが必要だ。流山市は、つくばエクスプレスの会社に100億円近く出資しているが、この会社から配当がくるというシステムになっているのか。
- ・真水以外にも、国のいろいろな補助制度、例えばまちづくり交付金などを活用して、それで身の丈を大きくする、そういう戦略的な考え方をしていきたい。

(染谷企画財政部長)

- ・出資金に対する配当は、今のところない。
- ・特定財源の、まちづくり交付金は、国交省の補助金で40%の補助率の事業。本市では、地域住宅交付金という補助制度を用いている。これはまちづくり

交付金より率がよく、45%と聞いている。さまざまな国の政策を用いて、特定財源の確保に努めている。

(内山委員)

・それを合わせて真水と言っているのか。

(染谷企画財政部長)

・それは真水ではない。

(内山委員)

・それを含めて、身の丈を大きくするように努力しようということ。

(染谷企画財政部長)

・わかりました。

(中山委員)

・TXを東京駅まで延伸すれば良い。

(奥田委員)

・人件費について。向こう10年で15億円の削減とある。人口が増えている中で、毎年、こんなに減らしていけるものか、伺いたい。

(加藤企画政策課長)

・人件費は、平成22年4月1日、この計画がスタートする日に、986人として推計した。この数字は、現在の職員数を基礎とし、退職する職員を不補充としたもの。平成22年4月以降は、適正計画の見直し等で、職員を補充するという前提で推計をした。

(染谷企画財政部長)

・この定員適正化計画では、平成22年4月1日で960くらいに設定している。平成20年の4月1日は1040人。ここで既に50数人の乖離が出ているので、見直しではなく、平成22年から5年間の新しい定員適正化計画を策定しなければならない。

・現在の第1次定員適正化計画では、初期の平成16年度に、3か年の実施計画の不足額が65億円という財政危機に見舞われ、3年間の職員の不補充を行った経緯がある。当時の危機的状況を脱して、少しはよくなった。

- ・平成22年からの新たな定員適正化計画、5年間の定員適正化計画では、現在の定員適正化計画にある3年間据置はせず、コンスタントに採用していくという考えなので、986人くらいになると推測する。

(浅見会長)

- ・大きな無理はしていない、ということ。
- ・いろいろな施設や建物の維持補修費を歳出でどのくらいみているか。

(加藤企画政策課長)

- ・維持補修費は、実績から年間4億円程度をみているが、大きな修繕や大規模改修等は入っていない。

(浅見会長)

- ・維持補修は、けっこうかかるので、身の丈を維持するために、少し正確に、大規模修繕も何年かに一度あると加味して出しておいたほうがいい。そうすると80億円が減る。本当の意味での身の丈、真水の部分がどのくらいか、今の状況を維持するために、どのくらいかかるかを見ておく必要があるので、今後、ご検討いただきたい。

(染谷企画財政部長)

- ・今回の歳入の見通しについては、ご納得いただけたか、うかがいたい。

(増岡委員)

- ・よくわからないが、勉強して理解するようにしたい。

(浅見会長)

- ・いろいろなものが入り込み、数字だけ見ても簡単にわかるものではない。我々も慣れていきたい。次回、新たな項目が加わり複雑になるので、また、ご説明いただきたい。

(浅見会長)

- ・出されたご意見、質問のまとめ。
- ・歳入の内容。特に法人割税はさほど大きくないとのことで、若干安心した。リタイアして、年金生活に入ると、普通の住民税も減るので、その点をもう少し精査する必要がある。
- ・出資金でやっているＴＸなど事業があるが配当がない。他にもうまく事業を

- やってほしい。また国の補助金などもうまく入れて活性化に努めてほしい。
- ・定員について。大分減るが、大きな無理をしているわけではない。
 - ・維持費の問題については、ご検討いただきたい。
 - ・今後、ここの議論として、考えるべきものなので、精査するのではなく、概略をつかんだ上で、どういう方針で10年を考えていくか、フィードバックする形で進めたい。
 - ・財政見通しについては、市長からの諮問の中に、審議の過程で意見をいただく事項がある。今回の議論をふまえて、そのような形で整理するということが良いか。

(内山委員)

- ・新聞に、米の生産調整に関する事で、千葉県産のあきたこまちを秋田県の農協が買って、あきたこまちブランドで売ったり、佐賀県から新潟県が生産の権利を買って、コシヒカリをたくさん作るという記事があった。米の生産の様子が変わってきており、日本を元気付けるのは、農産物かもしれない。農業振興が重点施策に入っていないが、もう少し農業について考えてもいいのではないか。

(浅見会長)

- ・次回までに、ご検討いただきたい。

(加藤企画政策課長)

- ・庁内で、策定部会や分科会、策定会議で、現状と課題、基本方針を検討しているが、時間がかかっている。理由は、横断的施策の議論が十分でなく、タウンミーティング前に準備ができない、第1次財政の推計でも横断的施策や査定に時間を要するため。こちらのことを鑑みて、策定スケジュールを見直したい。
- ・皆様には、見直しが終了したら、ご報告をさせていただきたい。また、タウンミーティングの実施時期がずれるので、別途、ご通知したい。

(浅見会長)

- ・意見書の件は、いかがか。

(加藤企画政策課長)

- ・配付した資料のように、市民の方から貴重なご意見を会長宛にいただいた。取扱いについては、会長名で意見をいただいた方に回答するという形で良い

か。

(浅見会長)

・了解ということ。

(浅見会長)

- ・本日、それぞれの議題で出た意見は事務局で反映いただきたい。
- ・次回の審議会開催は、事務局と協議して決定したい。本日は終了。